

2012年度 社団法人西大寺青年会議所 スローガン

社団法人 西大寺青年会議所
第52代理事長 三枝 克守

<基本方針>

活気ある地域づくりを目指す
利他の心で奉仕を行う
会員拡大と資質向上に努める

【スローガンについて】

2012年度、社団法人西大寺青年会議所は、スローガンを観見奉仕(かんけんほうし)と掲げ、青年会議所運動に取り組みます。

スローガンにある「観」とは物事を総合的に観ることを意味し、「見」とは物事を集中的に見ることを意味します。

部分的なことだけに捉われることなく広い視野で物事を観て、さらに核心をしっかりと見据え、常に奉仕の心を持ち、明るく豊かな社会の実現に向け、地域の方々から必要とされる青年会議所運動を目指します。

【活気ある地域づくりを目指す】

私たち西大寺青年会議所は、岡山市東区、瀬戸内市及びその近隣地域を中心に運動を展開しています。2月の少年はだか祭りは開催40年を超える歴史あるお祭りで、その他にも地域活性化事業や社会福祉に関する事業を開催しています。

2012年度は、前述した中でも地域の活性化を目的として、瀬戸内市を舞台にその土地柄や特産品などを活かせるような事業を開催し、地域の方々との新しい繋がりを築くとともに、あらためて地域の魅力を実感していただけるような活気ある地域づくりに向けた事業を開催します。

活気ある地域づくりを目指す上では、地域の未来を担う子どもたちの育成支援が必要不可欠です。まちづくりと青少年育成を一つのものとして捉え、青年会議所運動を通じて、子どもたちに健全な心、そして地域への思いを育んでもらえるよう取り組みます。

人が何かの目的に向けて行動をおこす時、事前にしっかりと準備をするかしないかでは、その結果は大きく変わります。特に青年会議所運動においては計画から実行に至るまで、幾度も会議を重ねた上で事業を行います。活気ある地域づくりは、口で言うほど簡単に実現できるものではありません。私たちが地域の方々とともに、どのような地域づくりを目指すべきか会員相互で常に話し合い、自分たちの思いや地域の方々の思いを形にできるよう準備を怠ることなく、日々活気ある地域づくりに向け取り組んでいきます。

【利他の心で奉仕を行う】

2011年3月11日に発生した、東北太平洋沖地震による津波の被害を受けた被災地の様子は、繰り返される報道の中で幾度も見ました。その時の言葉を失うような光景は、今も心の中にあり、被災地の一日も早い復興を願わずにはいられません。震災により、突如として尊い命を失うこととなった皆様には、心からご冥福をお祈り申し上げますとともに、震災の記憶を薄れさせることなく、今なお復興へ向けた道のりを歩んでおられる皆様に、私たちは継続して支援を行います。

地域によっては、既にかかなりの支援が進められていますが、未だ復興には程遠い被災地も数多くあります。昨年の震災発生以降、救援物資の提供や、西大寺青年会議所が開催した事業に参加された皆様、また街頭で募金して下さった皆様、さらには西大寺青年会議所特別会員の先輩方からお預かりした義捐金という形で、被災地の皆様へ支援をさせていただきました。2012年度も継続的な支援を考えていますが、一口に支援と言っても、現地でボランティア活動を行う、前述したように義捐金という形で支援を行う、また被災地の皆様に私たちが開催する事業に参加していただけるよう計画するなど、その方法は様々です。私たちの一方的な思いで支援を行うのではなく、被災された方々に対する最善の支援とは何かをよく考えた上で行動に移します。

個人団体そして国内国外を問わず、多くの方が様々な方法で被災地への支援を行っています。そこには、被災された方々が以前の生活を取り戻すことができるようにという純粋な気持ちが込められています。その純粋な心は、青年会議所が目指している奉仕そのものであり、あらためて私たちはその大切さを学び、利他の心で奉仕を行っていきます。

【会員拡大と資質向上に努める】

明るい豊かな社会の実現を目指すためには、私たち自身の組織がしっかりとしたものではなければなりません。西大寺青年会議所がこの先も地域において運動を継続していくために、私たちは会員拡大と資質向上に取り組みます。

2011年末の時点で、西大寺青年会議所の会員数は、10年前と比較して約3割減少しました。ここ数年、志を同じくする仲間を募るべく会員一丸となり、地域にお住まいの皆様へ青年会議所の運動内容を少しでも理解していただけるよう訪問を繰り返し、また私たちが開催する事業に参加していただき、実際に運動内容を見ていただくなどの取り組みを進めています。

青年会議所運動の三信条である修練・奉仕・友情を軸に、人と人との繋がりを大切に、地域に根ざした運動を展開している青年会議所の良さをもっと多くの方々に知っていただき、仲間として加わっていただけるよう引き続き取り組みます。

また、入会3年未満の会員が全体の約半数を占める現状を踏まえ、私たちは会員各々の資質の向上に取り組みます。私たち青年会議所が目指しているもの、青年会議所運動におけるルールなど、基本的な部分を学ぶのはもちろんのこと、青年経済人として必要な知識や行動力を養うことはとても重要です。限られた時間を有効に活用し、例会やその他の事業の中で積極的に研修を取り入れ、会員各々が自己研鑽に努めます。

私たちが開催していく事業が、より一層意義あるものになるよう、また地域の方々から今まで以上に必要とされる団体となるためにも、常に志を高くもち、様々な形で資質向上に努めていきます。

【結びに】

社団法人西大寺青年会議所は、2008年12月に施行された公益法人制度改革に伴い、公益社団法人もしくは一般社団法人への移行が迫られる中、昨年から本格的に準備を進め、2012年度には現在の特例民法法人という位置づけから、一般社団法人西大寺青年会議所へと移行いたします。新たな一步を踏み出すこととなりますが、今まで50年以上に亘り先輩方が築いてくださった伝統をしっかりと受け継ぎ、さらに新しいことにも取り組みながら青年会議所運動に邁進してまいります。

一人一人の強い意志なくして、掲げた目標の達成はあり得ません。自分たちが思い描く目標の実現に向け、力を合わせて取り組んでいきましょう！

一年間の抱負



副理事長 長田 智宏

新年あけましておめでとうございます。

本年度は、第五十二代三枝理事長のもと、岡崎委員長が率いる(わっしょい委員会)の担当副理事長を務めさせていただきます。今年一年間、執行部と委員会をしっかりと繋げるよう橋渡しをし、三枝理事長をしっかりと補佐できる様精一杯頑張っております。

わっしょい委員会では、青少年育成を主として事業を担当いたします。少年はだか祭りも第41回を迎え、地域の伝統行事として根付くなか、メンバーの減少にともない厳しい運営状況にあります。地域の皆様に御協力頂いて成功に導きたいと思っております。また、新規事業として、子ども達自身に自分たちが生活する地域に関心をもたせ、また日頃から危険な箇所、不審な箇所に対しての注意力をやしなうことを目的とする「安全マッ

プの作成」を計画しております。

理事長がスローガンに掲げます「観見奉仕」を念頭におき今年一年間、邁進して参りますので、本年度もご指導ご鞭撻の程どうぞよろしくお願い申し上げます。

副理事長 塩崎 鉄司

本年度、会員創造委員会の担当副理事長を務めさせていただきます、塩崎 鉄司です。
國本 秀範委員長の会員創造委員会をバックアップさせて頂きたく思いますが、当委員会の主な事業の一つとして挙げられています、会員拡大事業については、いままでは一部のメンバーに任せきりというのが大半であると思います。そんな中で、國本委員長が会員拡大について、やりやすい環境を整えて行く事が重要な責務でありメンバー全員で会員拡大について今まで以上の体制で臨んで頂く環境作りも進めて参りたいと思います。また三枝 克守理事長の所信の中にある、東北太平洋沖地震の被災地復興支援も委員会の事業とされておりますが、西大寺青年会議所はどのような支援をするべきか、また何が出来るのか、そして何を求められているのかをまずは、執行部そして役員、全メンバーでよく議論して行くところから、改めて初めていかなければならないと思います。國本委員長には理事2年目で重要な事業が多く、大事な1年間となります。私自身、至らない点は多々あるとは思いますが、出来る限りのサポートを努めて参りますので、一年間どうぞよろしくお願い申し上げます。

副理事長 坪井 綾広

ご拝命頂き有難うございます。2012年度 副理事長として地域連携委員会を担当させていただきます。当委員会は理事長の基本理念にあります“活気ある地域づくり”として地域活性化を念頭において事業に取り組んでまいりますが、活性化を図るには市民の皆様なくしてはありえません。そこには地域の“価値”というものがああり、その価値を如何様に見つけ出し、如何様に生かせるかで、地域づくりが決まってきます。

ある古建築の先生から「建築の価値はもともとあるものではなく、見つけてあげるものです」とお教え頂いた事があります。価値は単一的なものを見るだけでは決して見えてきません。他の地域や環境で同じものが有るのか無いのか、日本中の寺社仏閣を自分の眼で確かめ、棟梁の人物像や時代背景まであらゆるものを探っていきます。こうした研究を重ねる事で本当の価値、つまり“美しさの裏にある価値”が初めて見えてくるという事をご教示頂きました。

私たちのまちづくり事業においても同じ事が言えると思います。単一的な考えで莫大な費用をかけて実施する事業があるとするなら、おそらくそれは、勝手に素晴らしいと思っ込んでいるだけの事業でしょう。先ずやらなければならない事は、私たちの活動エリアでどの様な美しい場所があって、どの様な素晴らしいものがあるのか、全国にも注視し、積極的な研究と努力で、地域の価値“魅力”を見つけてあげる事が先決です。その為には地域の皆様との連携を更に強固なものとし、地域情報に常に耳を傾け、流れに乗り遅れない事が肝心でしょう。

若干20名のメンバーだけでは、地域活性化事業は成し遂げられません。最大限に引き出された魅力を、地域全員で行ええるようバイブレーションを起し、全国にうったえ続けていかなければなりません。これこそが“青年会議所運動”であり、私たちだからできる素晴らしさではないでしょうか。

旧年は東日本震災や経済状況の低迷で暗い年になったように思います。明るい兆しを迎え入れられるよう全力で頑張ってまいります！

専務理事 赤木朋央

新年あけましておめでとうございます。
本年度、第五十二代三枝理事長のもと、専務理事を務めさせていただきます赤木です。
三枝理事長のサポート役として、また岡山ブロック協議会をはじめ、各地青年会議所との窓口として一年間しっかりとJC運動に取り組んでいきたいと思っております。
また、総務担当として昨年より引き継いだ一般社団法人への移行申請を行います。予算書、決算書共に今まで以上に難しい部分がありますが、藤本委員長率いる総務委員会の手助けをし、一緒に勉強しながら一般社団法人への移行を完了させたいと思っております。
一年間宜しく願いいたします。

総務委員会 委員長 藤本成浩

新年あけましておめでとうございます。
本年度、総務委員会委員長を務めさせていただくことになりました。
本年度、社団法人西大寺青年会議所は公益法人法改正に基づき、新たに一般社団法人としてスタートをきる年となります。
前年度、総務委員会が取り組んできた新公益法人制度移行申請をしっかりと引継ぎ、迅速かつ正確に手続きを行うことが委員会での重要職務だと考えます。
また、総務委員会は年間を通じてLOMの運営に大きく関わっていく委員会です。
LOMの運営を円滑かつ確実に行っていくと共に、各委員会における事業を裏方としてサポートしていければと思っています。
新たなスタートをきるこの年に委員長を務めることに、責任の重さを感じてはおりますがメンバーの協力のもと一年間頑張っていきますのでよろしくお願いいたします。

西大寺わっしょい委員会 委員長 岡崎 将明

新年 明けましておめでとうございます。
本年度、新理事として西大寺わっしょい委員会委員長を務めさせていただく岡崎将明です。少年はだか祭り等の事業を担当させていただきます。
委員会名につけさせていただいた「わっしょい」というお祭りのときに使う士気を高める掛け声には、私の一つの思いをこめています。この言葉の語源の一つに「和一処(わいっしょ)」というものがあります。この意味は「皆で一丸となって力を合わせ、一つのことを成し遂げる」
現在の少人数体制である西大寺青年会議所では一つの事業を成功させるために、全員が一丸となり力を合わせなければなりません。そして「わっしょい」という言葉のように活気あふれる委員会にしていきます。
第41回をむかえる少年はだか祭りでは特別会員の皆様方、地域の皆様方に多くのご協力をお願いさせていただくと思っておりますが、大変未熟者のためご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。
わっしょい！ヽ(〇)ノ

地域連携委員会 委員長 中西秀和

新年明けましておめでとうございます。2012年度地域連携委員会委員長を務めさせていただきます、中西秀和です。入会して4年目にあたる本年、初の委員長という大役をいただき、大変責任を感じています。
地域連携委員会としましては、新年祝賀会の開催から始まり、西大寺マラソン、植樹、昨年より行われてい

るサマーキャンプ、スポーツ大会、ごふくまつりなど、1年間を通していろいろな事業を行う予定となっています。サマーキャンプでは、キャンプ地として当 LOM 活動範囲内である牛窓を予定しており、子供たちに地元、近郊であるこの地域の魅力を再発見してもらいたいと考えています。

本年度は私にとって、はじめてのことばかりとなり、つまづくことも多々あると思います。そのため、いろいろな修練を受けることができると思います。この修練を委員会メンバーと協力し乗り越え、友情を育み、自らも成長できる内容のある1年間にしていきたいと考えています。1年間委員長として精一杯がんばっていきますので、ご指導、ご協力の程よろしくお祈いします。

会員創造委員会 委員長 國本秀範

本年度、会員創造委員会委員長を務めさせていただきます國本秀範と申します。委員長として、二年目になり昨年一年間委員長として務めさせていただいた経験を活かし、今年も一年間精一杯頑張ります。

委員会の事業と致しましては、会員の拡大、震災復興支援、例会の運営を主におこなってまいります。特に例会では、研修などを取り入れ、全体のスキルアップに繋がるよう取り組みたいと思います。

会員の拡大に関しましては、目標を定め日々、努力してまいります。震災復興支援に関しましては、少しでもお役に立てるよう考えて行きます。

一年間委員長として、また西大寺青年会議所の一員として「修練・奉仕・友情」を基本におき精一杯努力しますので、皆様ご協力お祈いします。本年度もご指導ご鞭撻の程、宜しくお祈い致します。

観見奉仕

1月例会



先般1月11日(水)に2012年度1月例会が開催されました。新年度最初の担当は、会員創造委員会ということで、計画から当日の運営まで当委員会 で設営させていただきました。新年度最初の例会ということで設営にも力が入りました。はじめに第52代三枝理事長の最初の緊張感のある点鐘。身も心も引き締まる思いを改めて感じました。三枝理事長最初の挨拶では、本年度のスローガン<観見奉仕>についての意味、思いを語って頂きました。新委員長2名を加え、新たな体制でのスタート

を実感させられました。

委員会アワーでは、委員会ごとに今年度の事業説明、抱負、個人の意気込みを語りました。事業を通して友情を更にふかめ、協力することを学んでいきたいと思えます。本年度スタートの例会で新メンバーも加わり全21名一丸となって新たな年のスタートがきることが出来たと思えます。今年1年、三枝理事長を支え全員で頑張っていきたいと思えます。

会員創造委員会 福江 寿史

新年祝賀会



1月13日(金)に、西大寺グランドホテルにて、2012年度新年祝賀会が開催されました。石井正弘県知事をはじめとする御来賓の皆様、友好JCの皆様、そして特別会員の先輩方に見盛られる中、本年度初の対外事業となる新年祝賀会が開催されました。

まず三枝理事長の緊張感ある中での、力強い熱い思いのこもった所信表明から行われました。この所信表明から本年度の西大寺青年会議所も力強く熱く進んでいけることを確信しました。また、全力で三枝理事長を支え、最高の1年にしていこうと強く思いました。

本年度祝賀会では、例年とは少し違い、アトラクションとして、吉備人の皆様に新年を祝う演舞をしていただきました。この演舞によって、祝賀会も華やかになったことと思えます。

会を通じて、来場された皆様と親睦を深めることもでき、新年にふさわしい祝賀会となったと思えます。また素晴らしいスタートを切れたこと、来場して下さった皆様に心より感謝申し上げます。

地域連携委員会 委員長 中西 秀和

発行日 平成24年1月吉日

発行責任者 三枝 克守

編集責任者 國本 秀範